

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記六)】			
事業所番号	4470102296		
法人名	社会福祉法人 永生会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	大分市大字常行266番地1		
自己評価作成日	平成27年2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成27年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クリニック併設という点から、医療と訪問看護との連携により、利用者の体調変化への相談や対応が出来るため家族、利用者が安心して暮らせている。
入所者の高齢化に伴いターミナルケアへの取り組みをはじめ、その方がその人らしく暮らし家族と共に過ごせるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者個々の行動に対し、全職員が共有認識を持ち統一した対応を行っている。
・独自に作成されたケアカンファレンスの様式に全職員が記入し、現状に合った介護計画作りに活かされている。
・職員、家族、専門医との連携により、利用者の周辺症状に対する安全に配慮された生活や医療支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの人生を大切に、その人らしく普通に暮らせるように支援します。	母体法人の理念と事業所独自の理念を掲示し、理念に沿った「その人らしい生活」を地域資源を活かしながら支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児との交流、地域の行事(運動会、お祭り)などへの参加をしている	地域の運動会、敬老会、文化祭などに参加し、事業所で開かれる夏祭りには、多くの地域住民の参加が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の方へ説明、報告をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議の開催、活動報告や取り組みの内容を報告する。年間の議題を決め率直な意見交換を行っている。	運営推進会議は、隣接する同一法人事業所と合同で開かれている。今年度、緊急時の連絡網を見直し、地域協力者を組み入れた緊急連絡網を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市職員の方の参加によっていろいろな意見やアドバイスをいただいている。	運営推進会議には毎回、市職員の出席が得られている。今年度、事故対応について提案され、運営推進会議で、事故発生時の記録を書面で報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通し職員の周知徹底を図る。	利用者の所在確認を職員で共有し、状況に応じて、少し離れた位置からの見守りに努めている。認知症の周辺症状の顕著な利用者には、専門医や家族と連携を図りながら支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣い等について定期的に研修会を行い十分な注意を行うようにしている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修などに参加し理解を深め必要としている利用者家族に成年後見人制度について情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書、口頭などで十分に説明し家族の同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	福祉サービス相談員(オンブズマン)を設ける。	民生委員が個別に利用者の意見を聞くオンブズマン制度が年4回設けられている。家族面会も多く、年1回開かれる家族会は、6組の家族参加と母体事務長、所長も出席し、重度化の課題含め、情報交換の場となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させ質の向上に心がける。	日常のお茶の時間帯をミーティングに活用し、職員の意見の発信や情報の共有の機会にしている。利用者のケアや健康面など、必要時は職員全員参加で会議が開かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において個人目標の達成状況を自己評価することで意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	作業を手順書(マニュアル)に基づいた介護力の向上を常に図るとともに研修会への参加に積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者(施設)とのネットワーク会議の交流会に参加、意見交換や施設見学を行いサービス向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所後の環境変化に伴う不安の軽減に努め、笑顔での声掛けコミュニケーションを多く持ち、安心出来る関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時家族からの要望等聞き、面会時、電話などで様子報告を行い不安軽減に努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望と家族の要望を踏まえた上で、思いに添った支援に繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意とすることを、心よく手伝っていただける場面作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報交換を行い、必要に応じて家族との関わりを大切に協力を得、共に支えていく関係作りが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ継続的に行ったり、デイケアを利用し、楽しんで継続できるよう支援に努めている。	2人の利用者が携帯電話を所持し、職員の支援のもと、家族や友人とのコミュニケーションツールとして活用している。家族協力で自宅に帰ったり、馴染みの美容院に通い続ける支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く話しが出来、共に助け合い声掛け合える生活を送っていけるよう、利用者の間でスムーズにコミュニケーションが行えるように努めている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から相談があれば、必要に応じて相談等の対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中や生活歴で、利用者の方が何を望んで、又どのように暮らして活きたいいのかの把握に努めている。	アセスメントは、ADL主体に把握されており、状況変化がある度に見直しされているが、生活歴など、日常の暮らしについての記載が少ない。	利用者の認知症の周辺症状への対応や重度化に向けて、精神面含め、暮らしの記録が重要となる。利用者、家族などから得られた情報を記録に残し、支援計画につなげる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報交換にて、生活歴や本人の思いを知り得る限り把握できるように努めている。それ以後も常に本人や家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりを尊重し、その人らしい暮らしが出来るよう生活のリズムの把握に努めている。何が出来るかを考え、職員間での情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の要望を伺い、モニタリングやアセスメントを行って作成している。状態変化があった時はその都度ケアプランの見直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。	介護計画作成前に、全職員が個々の利用者の課題や問題点などをケアカンファレンスの様式に記入し、それを基に介護計画を作成している。毎月1回担当職員が全利用者の評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートにて、一人ひとりの状態が直ぐに分かるよう記録している。業務開始前には確認を行い情報を共有し介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	クリニック併設と、訪問看護との連携体制が出来ており、昼夜を問わず緊急時にはスムーズな対応が出来ている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	非常時の安全確保の為、近隣地域住民(自治委員)民生委員との緊急時の体制が出来る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医になっている。医療機関との連携を築きながら受診の前後の情報の共有を図っている。	併設のクリニックが掛かりつけ医となっている。精神科受診にはケアマネが同行し、利用者のBPSDや身体状況について話し合われている。医師、家族、職員間での情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な週2回の訪問看護の訪問があり日常の健康管理を行ってもらい、緊急時には相談助言をもらえる関係作りが出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関へ安心して治療できるように情報提供し病院関係者との情報交換や相談に努め早期退院の支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、訪問看護との連携を図り家族の意向を確認し終末期へ取り組んでいる。	重度化、終末期に向けて家族会で、母体事務長や所長から事業所方針や住み替え支援の説明が行われている。看取りに関する指針、同意書もあり、ユニット会議で看取りケアについての話し合いも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え応急手当の研修に参加し緊急時には医療看護との連携体制取っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月単独での避難訓練と年4回高田清流苑合同の避難訓練を利用者と共に実施している。災害時に備え、食糧 飲料水の備蓄や消防団との協力体制が出来ている。	毎月、防火扉、非常階段までの避難誘導訓練が行われている。事業所が、建物2階フロアにあり、隣接するグループホームや母体法人が応援できる体制を整えている。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な研修を行っており、守秘義務を徹底し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応に心がけている。職員同士でも注意しあえるようにしている	理念に個人の尊厳が謳われており、利用者が穏やかに、その人らしく過ごせるよう個々の話を聞き、画一的でない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活が出来るよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にし、その人らしく生活できるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみに気をつけている。髪を整える。食事等で食べこぼしがあった時は着替える等の対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる片付けなどの出来ることを手伝っている。職員と一緒に下ごしらえを行う。	母体栄養士が献立を立てているが、状況に応じて献立の変更が行われている。全利用者が共有空間の食卓で食事を取り、重度化による誤嚥の予防や対応等の職員間での学びも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った時間帯を把握し、水分摂取等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守り、介助等一人ひとりの状態や力に応じて口腔ケアを行っている。毎日、夜間は義歯消毒を行っている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った介助を行い、少しでも快適に過ごせるよう支援している。オムツの方は日中はオムツを外し、トイレ支援を行っている。	排泄チェックにより、失敗のない利用者には紙パンツから布パンツの利用を試みたり、介護度5の利用者の意志表示を基に、職員2人体制でトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、一人ひとりの排泄パターンの把握を行い、水分摂取、運動、腹部マッサージ等を行い排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態を把握し、希望に合わせて気持ちよく入浴が出来るように心がけている。	週2回、事業所行事に合わせ、午前・午後対応での入浴を基本としている。重度の利用者は、併設のディサービスの機械浴を利用し、全利用者が湯船に浸かり、ゆったりと入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を基に、日中の活動の参加を促して夜間気持ちよく安心して眠れるように支援している。又日中状況により居室で休んでいただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書の内容を理解し、確実投薬のため服薬チェック表を用いている。状態変化がある場合はDrや訪看に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態や力量に合わせた役割や、嗜好品を取りいれたおやつ作りを行ったり、歌と一緒に歌うことで、楽しみや気分転換に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の思いや、希望に応じて、散歩、買い物や隣接している保育園や地域の行事に出かける。	家族協力での外出や、同一敷地内の保育園に出掛けたり、地域行事への参加など、外出の機会を持つよう努めている。	

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員がしているが、買い物や外出時に、好みのものを購入できるよう手渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙のやり取りの支援や、電話等の取次ぎで話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるような飾りつけや、玄関、ホール、廊下に観葉植物を置き、気持ちよく過ごせるように工夫している。	開設13年を迎えるが、清潔に保たれた共有空間は不快な臭いもなく、適温に保たれている。食卓、ソファ、小テーブル等、職員の見守りを受けながら、利用者が思い思いに過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファや椅子を配置し、気の合った利用者同士が過ごせるように空間作りに勤めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真を持ち込まれている	利用者の状況に応じて、ベッドをマットレスに変えたり、タンスをプラスチック収納に替えるなどの工夫をしている。仏壇には、職員が毎朝、お仏飯を供えるなど、「安全な、その人らしい生活」の居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口に表札を付け、自分の居室が分かりやすいようにしている。又掃除できる人は自分の居室を自分で掃除している。		